



平成 28 年 4 月 11 日

各 位

会 社 名 株 式 会 社 サ ダ マ ッ  
 代表者の役職氏名 代表取締役 貞 松 隆 弥  
 社 長  
 ( J A S D A Q ・ コード 2 7 3 6 )  
 問 い 合 わ せ 先 取 締 役 磯 野 紘 一  
 管 理 本 部 長  
 電 話 番 号 0 3 - 5 7 6 8 - 9 9 5 7

平成 28 年 8 月 期 第 2 四 半 期 連 結 累 計 期 間 の 業 績 予 想 と 実 績 と の 差 異  
 及 び 通 期 連 結 業 績 予 想 の 修 正 に 関 す る お 知 ら せ

平成 27 年 10 月 16 日に公表した平成 28 年 8 月 期 第 2 四 半 期 (平成 27 年 9 月 1 日 ~ 平成 28 年 2 月 29 日) の 業 績 予 想 と 本 日 公 表 の 実 績 値 に 差 異 が 生 じ ま し た の で、下 記 の と お り お 知 ら せ い た し ま す。

また、最近の業績動向を踏まえ、平成 28 年 8 月 期 (平成 27 年 9 月 1 日 ~ 平成 28 年 8 月 31 日) の 連 結 業 績 予 想 を 修 正 い た し ま し た の で、併 せ て お 知 ら せ い た し ま す。

1. 業績予想の修正等について

(1)平成 28 年 8 月 期 第 2 四 半 期 (累 計) 連 結 業 績 予 想 と 実 績 と の 差 異 (平成 27 年 9 月 1 日 ~ 平成 28 年 2 月 29 日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 四半期純利益	1 株 当 り 四 半 期 純 利 益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	4,720	100	80	20	1.78
実績値(B)	4,782	68	47	2	0.25
増減額 (B-A)	62	△31	△32	△17	
増減率(%)	1.3	△31.1	△40.7	△85.9	
(ご参考) 前期第 2 四半期実績 (平成 27 年 8 月 期 第 2 四 半 期)	4,516	△163	△160	△116	—

(2)平成 28 年 8 月 期 通 期 連 結 業 績 予 想 の 修 正 (平成 27 年 9 月 1 日 ~ 平成 28 年 8 月 31 日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1 株 当 り 当 期 純 利 益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	9,600	240	200	45	4.00
今回発表予想(B)	9,600	170	140	25	2.22
増減額 (B-A)	0	△70	△60	△20	
増減率(%)	0	△29.2	△30.0	△44.4	
(ご参考) 前期実績 (平成 27 年 8 月 期)	9,184	126	113	15	1.34

## 2. 差異及び修正の理由

### (1) 第2四半期累計期間

当第2四半期累計期間におきましては、企業間競争の激化に加え、円高・株安の流れを受けた消費環境の冷え込みにより宝飾業界を取り巻く状況が一層厳しさを増すなど事業環境は厳しい状況で推移しました。

売上高につきましては、引き続きブランド力向上への投資に加え、積極的な販促施策を実施した結果、主力商品である“Wish upon a star”の売上が前年同期比33.0%増と好調に推移し、予想を上回りました。

年間最大の需要期である12月商戦におきましても、TVCM等の積極的な販促施策の効果により“Wish upon a star” Xmas限定商品が予想を上回る売れ行きとなるなど堅調に推移した一方で、前年同期比2倍の供給量で対応したにもかかわらず欠品が発生し、機会損失を余儀なくされるなど需要予測や供給体制に課題が残りました。さらに、その他商品への需要取り込みが期待どおりに波及しなかったことに加え、特に当第2四半期後半以降に宝飾需要の低迷が鮮明となったことから、売上の伸びは限定的となりました。

利益面につきましては、増収に加え、高付加価値商品である“Wish upon a star”の売上構成比が拡大したことにより、売上総利益は前年同期比8.1%増と当初の想定値を上回りました。一方、費用につきましては、当初計画として映画「リトルプリンス 星の王子さまと私」とのコラボレーションCMを首都圏中心に放映した他、Eコマース事業等の新規チャンネル構築に向けた設備投資や新規出店・店舗改装に伴う追加費用の拡大もあり、販売費及び一般管理費は、前年同期比では横ばいであるものの、当初計画に対しては増加しました。このような状況から、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する四半期純利益は前年同期からは大幅に改善したものの、予想に対してはそれぞれ下回る結果となりました。

### (2) 通期

今後の経営環境におきましては、円高・株安基調を背景とした宝飾品需要の低迷、労働力人口の減少や雇用情勢の改善に伴う人材不足問題の深刻化、中国経済の減速に端を発した世界的な景気後退リスクの増大など、予断を許さない厳しい状況が続くと予想されます。

このような厳しい環境においても、足元での業績確保と並行して当社では平成27年10月に発表した新中期5ヵ年計画の実行を同時に進めており、持続的な成長への布石となる取り組みにも注力しております。

通期業績につきましては、主力商品である“Wish upon a star”を基軸とした販売強化を継続するとともに、採用・育成の強化やEコマースを中心とした新規チャンネルの構築など、新中期5ヵ年計画の実現を見据えたインフラ整備を引き続き実施してまいります。さらに、3月には織研新聞社「第34回百貨店バイヤーズ賞レディス（アクセサリー部門）」において当社旗艦ブランドの「フェスタリア ビジュソフィア」がベストセラー賞を受賞したことに加え、同社「第18回ディベロップ&テナント大賞・部門賞」のプロポーズ賞に当社ブランドの「ドゥミエール ビジュソフィア」が選出されるなど、ブランド力向上施策の成果が着実に現れていることから、ブランドバリューや認知度をさらに高めるべく、各種施策を実行してまいります。

その一方で、当第2四半期連結累計期間の業績や宝飾市場の需要動向が楽観視できない状況にあることに加え、Eコマース事業の収益化やインバウンド需要の戦略的獲得の進捗が乏しく、当初想

定に対して業績への寄与が限定的になる可能性を踏まえ、平成 28 年 8 月期通期の連結業績予想を修正いたします。

売上高につきましては、外部環境の悪化が懸念されるものの、足元でも“Wish upon a star”が堅調に推移しており、売上の下支えとなることが見込まれるため、上記のとおり前回予想からの変更はありません。

利益面につきましては、売上高は通期予想を据え置くものの、当第 3 四半期以降も上述のとおり成長戦略投資を実行していく方針から、当第 2 四半期累計期間における利益面の下振れ分を挽回するまでには至らないと見込んでおります。また、外部環境の悪化から“Wish upon a star”以外の商品が低調に推移している状況を踏まえ、新中期 5 ヶ年計画の重点施策として掲げた「財務基盤や収益構造を強化する」の一環として、将来成長に向けた在庫の適正化を推進すべく、セール施策の実施や在庫処分に伴う構造改革費用を勘案した結果、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益は前回予想を下回る見通しであります。

以上